

府中愛宕山古墳(石岡市)

正面前方が府中愛宕山古墳/「舟塚山古墳」に続く6世紀初め頃築造の前方後円墳



正面に白い説明板が見える



後円部を見たところ/奥が前方部

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



右手を見たところ/周溝の名残が見て取れる



舟塚山古墳群6号墳とも呼ばれる/墳形は大阪府の菅田御廟山古墳(応神天皇陵)に類似していると記されている

県指定
史跡

府中愛宕山古墳

所在地 石岡市北根本六九四番地外
指定年月日 昭和四十六年十二月二日

府中愛宕山古墳は、舟塚山古墳の北東約三〇〇メートルに位置する前方後円墳である。霞ヶ浦に舟を乗り出す形なので出舟といわれ、舟塚山古墳は入舟と呼ばれる。明治三十年東京大学の坪井正五郎が発掘調査し、無文素焼の壺七個を発見したといわれる。

昭和五十四年の周溝確認発掘調査により、全長九六・六メートル、後円部径五七メートル、前方部幅五七メートル、後円部高八・五メートル、前方部高七・五メートルの規模を持つことが明らかにされた。その墳形は応神天皇陵(大阪府)に類似している。かつて、墳丘から形象埴輪が出土したといわれるが、詳細については不明である。

この古墳は、舟塚山古墳群の中でも規模が大きく、築造年代は、六世紀初め頃に位置づけられる。



府中愛宕山古墳全側図



円筒埴輪

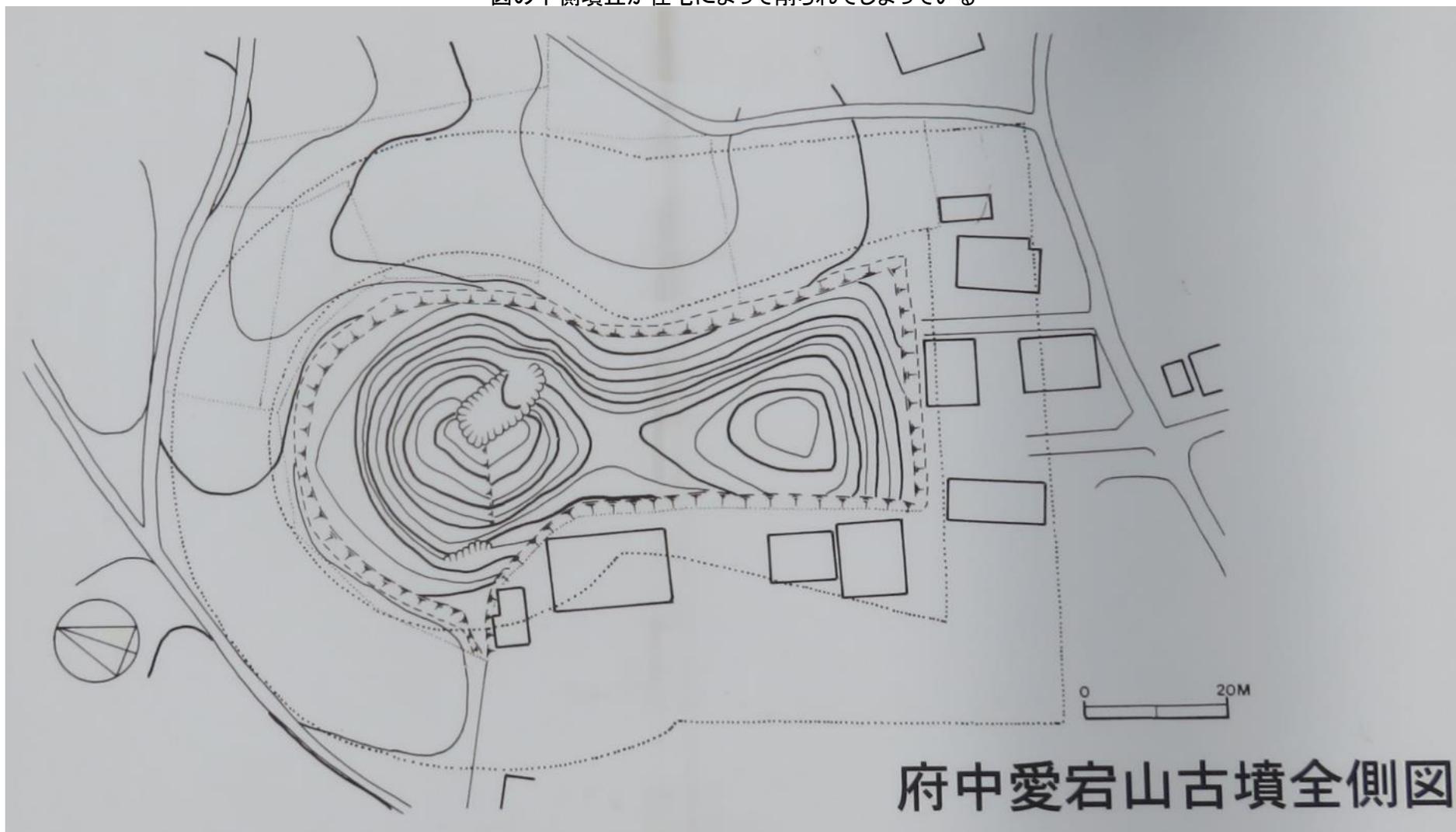


府中愛宕山古墳

平成二十六年三月

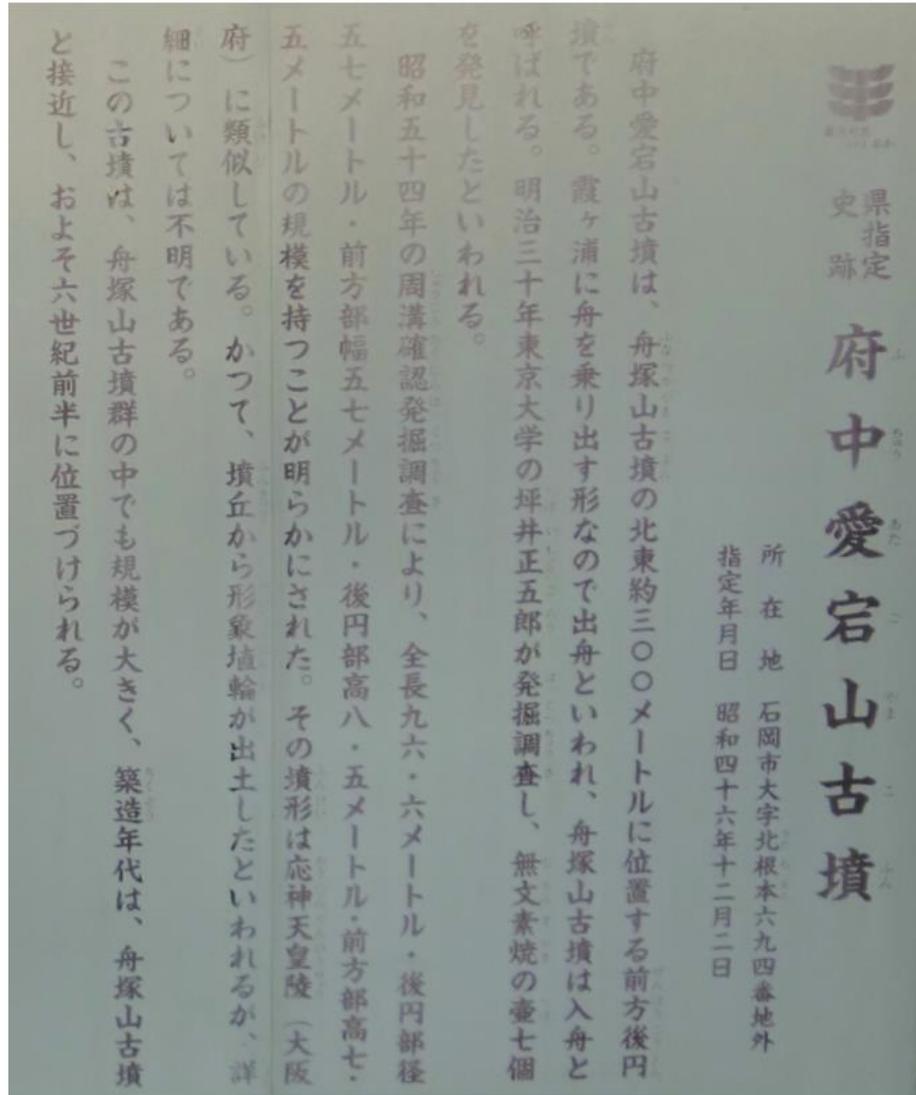
石岡市教育委員会

図の下側墳丘が住宅によって削られてしまっている



府中愛宕山古墳全側図

以前の説明板では6世紀前半の築造とされていた



※ 水運で栄えた高浜の地にある古墳からか、霞ヶ浦に舟を乗り出す形なので出舟といわれ、舟塚山古墳は入舟と呼ばれると記されている

後円部斜面から前方部方向を見たところ/住宅で一部削られている様子

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



後円部から「くびれ」部、そして前方部を見たところ

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



前方部から後円部を見たところ



前方部斜面から後円部方向を見たところ



「くびれ」部から後円部を見たところ



参考ホームページ

<http://gogohiderin.blog.fc2.com/blog-entry-447.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12337604687.html>

<https://blog.goo.ne.jp/junko-f2/e/e9ea322a2156d3fb3481cb54dfbb4cf7>

<https://plaza.rakuten.co.jp/ia11spikel700/diary/201801170002/>

<http://ushiko.blog.jp/archives/30747819.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/ibaraki/isioka/atago.htm>

